



多様性が生み出した「アメリカ音楽」の魅力



「ヒップホップ」と「ラップ」

ニューヨークの若者たちから生まれた文化「ヒップホップ」の音楽的要素を担う「ラップ」は、音楽という形で社会的なメッセージを伝える表現手段として、多くの若者に支持されてきました。

「ヒップホップ」と「ラップ」の違いとは

ヒップホップとは、1970年代にニューヨークのブロンクス地区で開かれたストリートパーティーから生まれました。公園などの仮設ステージでDJやダンスの腕を競うストリートパーティーは、主にアフリカ系アメリカ人の若者たちによって開催されていました。ヒップホップとは、一般的には、DJ、ラップ、ブレイクダンス、グラフィティアートの4つの創造的文化を統合したものだと言われています。ヒップホップとラップは同義語と誤解されることが多いですが、ヒップホップは、アフリカ系アメリカ人の若者たちが生み出したカルチャーの名称であり、ラップは、ヒップホップを構成する一つの要素なのです。

若者に支持される多様性とメッセージ性

ヒップホップは、人種差別や貧困、不平等といった大きな問題を取り上げることで多くの人々に注目され、社会的な意義やメッセージ性を持つものとしても評価されています。ヒップホップの名付け親は、DJのアフリカ・バンバータだと言われています。バンバータは、ヒップホップの黎明期に関わった3人のDJのうちの1人とされており、もともとは4つだったヒップホップの要素に「ヒップホップ史の社会的文化的影響を理解する知識」を加え、平和や団結、愛、楽しむことをモットーに掲げました。ラップは、リズムに乗って韻(ライム)を踏みながら、早口でしゃべるように歌うというスタイルを持つ音楽であり、一般の人々がラップを知るようになるのは、ヒップホップ・グループのRun-D.M.C.が登場する80年代に入ってからのことです。



ヒップホップのミュージシャン

Run-D.M.C.(ラン・ディー・エムシー)

ヒップホップ・グループ「Run-D.M.C.」が、1984年にリリースしたファースト・アルバムはミリオンヒットを記録し、ヒップ・ホップのアルバムとして初のゴールド・ディスクを獲得しています。3枚目のアルバム「レイジング・ヘル」の売り上げは、200万枚を記録し、彼らが着用していたアディダスのスニーカーやカンゴールのハットは、オールドスクール・ヒップホップ*のヒップホップ系ファッションとして定着しています。*ヒップホップ黎明期のラップを指す音楽用語

エミネム(1972-)

エミネムが全世界で販売したアルバム&シングルは、2億2000枚を超えるといわれ、「史上最も売れたアーティスト」の一人とされています。ヒップホップにおける最も優れたヒップホップMC(ラッパー)でありソングライターでもある彼は、数多くの代表曲を持ち、1990年代から2000年代に強い影響力を持ちました。全米チャートでは、アーティストとして唯一となるアルバム9枚連続初登場一位を記録しており、グラミー賞を15回、アカデミー賞を1回受賞しています。



ヒップホップの名曲

Walk This Way

エアロスミスの同名のヒット曲をモチーフにしたRun-D.M.C.の『Walk This Way』は、1986年にリリースされ、全米チャート4位を記録しました。エアロスミスのボーカルのスティーヴン・タイラーと、ギターのリック・アルバートがレコーディングに参加し、ミュージック・ビデオにもゲスト出演しています。この曲のヒットにより、Run-D.M.C.はラップとロックを融合した先駆的存在として知られています。

ルーズ・ユアセルフ

エミネムの半自伝的ストーリーを綴り、俳優としても活動している彼が主演した映画『8 Mile』のサウンドトラックに収録され、2002年にリリースされた曲です。ヨーロッパのシングルチャートのトップを席巻し、全米チャートでは、12週連続1位を獲得しています。2009年にアメリカでのダウンロードが自身初の200万回を超え、グラミー賞2部門受賞、アカデミー賞歌曲賞受賞など華々しい記録を持つ、ラップの大ヒット曲です。



自分のスタイルと言葉でメッセージを伝えるラップ

ラップには、フリースタイル、バトル、ストーリーテリング、ポリティカルラップなど、さまざまなスタイルがあります。フリースタイルとは即興ラップのことで、その場で言葉を選び韻を踏んで音楽を披露するというものです。フリースタイルのMC同士がラップを披露し合い、聴衆や審査員を前にスキルを競い合うのがバトルです。MCにはビートやメロディといった音楽的センスとともに、社会問題や日常生活への思いなどを自分自身の言葉で表現することが求められます。

